

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つぼみケア		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 7日		2026年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年 2月 7日		2026年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケア児・重症心身障がい児への対応力 ・人工呼吸器・経管栄養・吸引・導尿など医療的ケア児の受け入れ実績がある。 ・保育士・看護師・リハビリ職など職種で支援し、緊急時対応やマニュアルを整備している。	・看護師を中心とした医療的ケア手順の共有 ・職員への定期的な医療的ケア研修・ヒヤリハット共有 ・主治医・訪問看護・学校との情報共有	・医療的ケア児の個別マニュアル見直し ・医療機器トラブル対応訓練 ・家庭とのケア方法の統一
2	個別支援計画に基づく支援の充実 ・アセスメントを行い個別支援計画を作成している。 ・5領域を意識した支援 ・支援内容を日々記録して振り替えを行っている。	・職員ミーティングで支援内容の共有 ・利用児の日々の変化を記録・共有 ・保護者との情報共有	・アセスメントシートの充実 ・コミュニケーション支援・スイッチ支援の導入 ・個別支援計画の評価会議の定期化
3	保護者との連携 ・送迎時に保護者と情報共有 ・連絡帳で日々の様子を伝えている ・相談に柔軟に対応	・家庭での様子や困りごとを積極的に聞く ・写真付き活動報告 ・保護者の負担軽減を意識した支援	・保護者勉強会 ・医療的ケア児の在宅ケア相談 ・就学にむけての支援

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動内容が固定化しやすい ・重症心身障がい児や医療的ケア児の利用が多いため、活動内容が感覚遊びや音楽活動に偏る傾向がある。	・利用児の身体状況や医療的ケアの必要性により活動が制限される。 ・活動に使用する支援機器や教材が限られている。	・ICT機器やスイッチ玩具を活用した活動の導入 ・多様な活動の検討等 機会の確保 ・心身状況に配慮した安全な活動の実施
2	地域や関係機関との連携が十分ではない ・地域や学校との交流や情報共有の機会が限られている。	・学校や関係機関との情報交換の機会が少ない。 ・地域交流活動の実施機会が少ない。 ・日常業務が多く連携の時間確保が難しい。	・関係機関との連携強化、連携窓口の明確化 ・定期的な情報共有の仕組みづくりや支援会議への参加 ・地域資源の活用や地域イベント・交流活動への参加
3	職員の支援スキルに差がある ・職員の経験年数や専門性に差があり、支援方法や障がい理解にばらつきがみられることがある。	・医療的ケア児や重症心身障がい児の支援経験が少ない職員がいる。 ・支援方法の共有機会が十分でない。	・職員が参加しやすい研修時間の確保 ・支援マニュアルの整備 ・定期的な振り返りの実施